



2011年 明けましておめでとうございます。

本年も、子どもたちの未来と身近な環境のため、feel/think/act
 そしていのちを学ぶ一環境教育・学習を進めてまいりたいと思います。



新年に寄せて「21世紀社会の指標」

東京学芸大学名誉教授・帝京短期大学教授
 NPO法人センスオブアース 顧問 佐島群巳

20世紀の100年間の経済成長は20倍に達し、国民の生活の豊かさをもたらした。その経済成長を支えたのがエネルギーである。25倍の膨大な量が消費されたのである。その結果、自然と社会に破壊をもたらした。

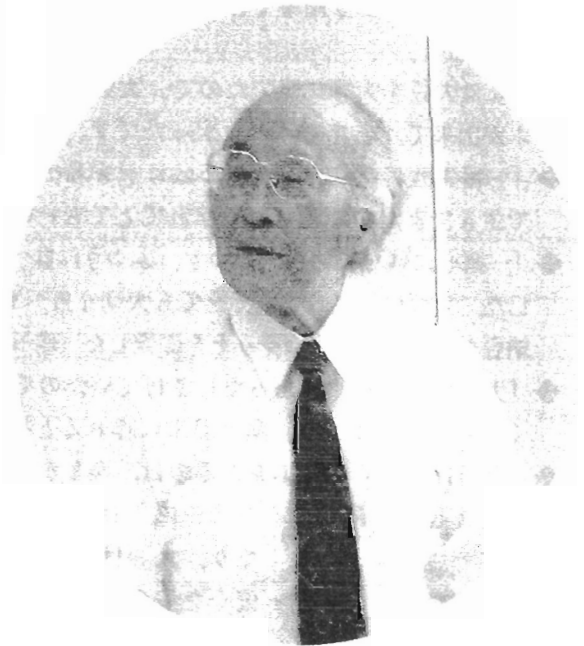
それまで、国の豊かさは、経済成長、国民総生産額 (GNP) という尺度で計られてきた。

21世紀は国民一人ひとりの幸せ、豊かさを計る尺度として純福祉 (NNW) に人間開発指数 (HDI) が示されている。HDIは健康や教育分野の成長の大きさを表すもので、ノルウェーは世界第一位、日本は十一位である。

教育において、学力優先、就活のみでHDIは伸びない。今、求められているのは、人間の強靱な意志力と目的志向で生きる社会的身体力である。そして、他者と「かかわる力」「つながる力」「分かち合う力」が求められている。

今、私たちは、身近にある環境への接近を共有しながら、環境への主体的対応・仲間たちとの協働の作業という「かかわり」「つながり」「分かち合う」21世紀型『生きる力』を重視していく必要がある。

その『生きる力』を21世紀を担う子どもたちに培うためには、今生きる地域環境で「環境教育・環境学習」の場を拓いていく活動を推進していかなければならない。



1 板七小産とうふづくりー4年生

例年、4年生が大豆を育てて、とうふづくりと味噌づくりをしている板橋第七小学校。

22年度は、成長期の夏が猛暑で、大豆を枯らさないようにするのが大変だったようです。

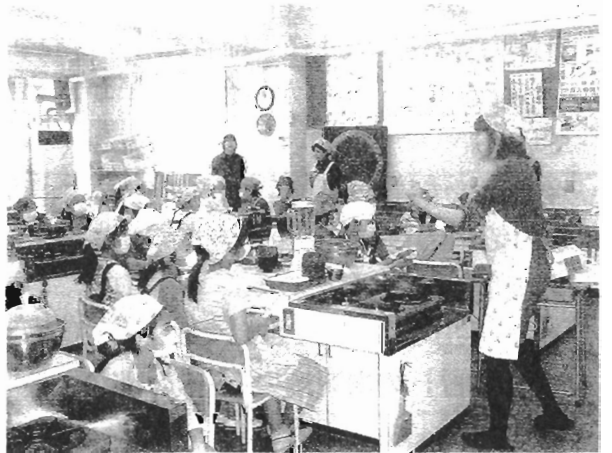
SOEはとうふづくりを一緒に行いました。

(2010年・秋)



- ◆「一生に一度しか出来ないようなとうふづくりが出来てうれしかったです。作り方や出来たての苦みをなくす方法までわかりました。日本は都会が大きすぎるから大豆を作る量が少ないのかなと思いました。」4年1組 T・Kさん
- ◆「わたしは、今日、日本、東京、板橋に生きていて、大変良かったと思いました。なぜなら、おいしいおいしいおとうふが食べれたことがうれしかった気がしました。大変楽しくつくりあそびました。」同 K・Eさん
- ◆「思っていたより簡単でとても楽しかったです。妹や弟にも作ってあげようと思いました。」同 K・Yさん
- ◆「私は大豆を大事に育てたので、大豆がおれいをしてくれたように感じられました。おいしくとうふが出来て、とてもうれしかったです。」同 J・Kさん
- ◆「一番失敗したと思ったのはコゲを混ぜてしまったことです。でも意外においしかったです。今まで生きてきた中でみんなで作れてとてもいい経験をしました。」同 S・Tさん
- ◆「一番心に残ったのは、いつも、ふつうに食べていたとうふが作るとこんなに難しいということを学びました。大豆は日本にとってとても大切な食べものだと思います。なので、一番初めに大豆を食べた人や納豆や豆ふ、しょうゆやみそを開発した(作った)人にかんじたいです。」4年2組 N・Kさん
- ◆「大豆はすごくきさかったしこげていたのでもうまくいくか、わからなかったけど、成功したのがすごくうれしかったです。意外と簡単に作れると初めて知りました。」同 H・Kさん
- ◆「今日はすごくとうふを作るのは、楽しかったです。それに、とうふは自分たちでも作れることが分かりました。最初にミキサーに入れたら、大豆は白い豆にゆうみたくなり、大豆はかきまぜる(注・つぶす)と白っぽくなるのが分かりました。」同 O・Eさん
- ◆「はじめに大豆と水をミキサーに20秒ごとスイッチを6回押してやるのが大変でした。(注・モーターを過熱させないため)次にどろどろになった大豆を30~40℃まで煮ると豆乳になったのでとてもいい匂いがしました。仕上げのときににがりを入れました。にがりを入れてすぐ固まったのがすごかったです。」

同 R・Jさん



とうふの作り方 おもしろそう~

◆「教えてくれた人は本当にありがたいです。一番印象に残ったのは生ごをさらしに入れて絞るときの感しょくです。ぶにゅぶにゅしていて始めは気持ち悪いと思っていたのですが、今までにないさわり心地で気に入りました。」同 F・Rさん

《保護者》Mさん「夏休みに子どもが育てていた大豆。一緒に、水やりをしたりしたので楽しみにお手伝いに来ました。というより、一緒に作り方を学んだという感じで勉強にもなりました。大人の私たちでも、ここまで体験することはありません。自給率の少ない日本で出来ることは何か。子どもたちには大きく心に残ったことでしょう。」

《保護者》Yさん「味噌づくりよりも簡単で子どもと一緒に家で作ろうと思います。今年は猛暑で大豆を枯らさないようにするのが大変でした。その中で採れた貴重な大豆で作った豆腐が食べられてよかったです。」

《保護者》Kさん「枝豆を育てていたときは、「本当にとうふつくれる？」と思うようなひ弱な豆でした。育てた豆で豆腐は作れませんでした。が、(注・4合ほど入っていました)育てて加工して食べものが作られ、食事が出来るという流れを全て体験出来たことはとても、おもしろく貴重な経験だったと思います。」



保護者の方の感想発表

2「秋の自然と楽しく遊ぼう」

金沢小 3年生 たくさんの不思議WONDERとの出会いがありました1!

WONDER「普段何気なく見ている花も、観察して見ると、様々な形がありました。草花辞典で見るよりも、本物を見た方が楽しいと思った。私が知らない場所で必死で生きている草花があった。今日、学校になかった植物を探しに行ってみよう。違う時期になったら、またこの授業を受けたい。」3年 M・Nさん

W「僕たちはカキが落ちているのを見つけた。よく見ると、鳥が食べたような跡があった。その鳥も紙芝居(食物連鎖の話をした)で見たように、食べられて新しい命に続くんだなと思った。」同 S・Tさん

W「植物やいろいろなものを見つける探すというのがとても楽しかった。」同 H・Rさん

W「いろんなかたちの葉っぱがあるんだな~と思った。いろんな自然のものがあつたので自然っていっぱいあるんだな。すごく楽しかった。」3年1組 T・Rさん

W「いろいろなことを知れたことが楽しかった。人も動物も食べていかないと死ぬんだということです。コウモリはガを食べます。しかし、ガがいなかったらコウモリは死ぬんだということが分かりました。一つかけると何かがしんでしまうんだ。ゲームでもコウモリがガを追いかける楽しい勉強が出来てよかった。」同 M・Wさん

W「木でも、SやYの形があるんだな。花にもハートや他にもあつておもしろいな。」同 S・Uさん

W「みんなと自然と遊ぶみたいなのはめったにしないので楽しかった。思い出に残る。グリーンキー



パーズ（学校のグリーンボランティア）をやりだして金沢小の自然を残したい。」同 T・Yさん

W「秋なのにカエルがいた。コガネムシの幼虫は、散歩道にいますとおもっていたけど、畑にいたとは。」同 T・Kさん

W「コガネムシは寒いのもよくなるかなと思っていたら、発表者も同じ考えだった。ハートの形があった時、すごくきれいな形だった。」同 T・Kさん

W「丸い形の葉っぱや、ハートの形や四角い石、Yの字のえだ、しぜんにはいろいろな形やおもしろい形があるんだな。」同 S・Mさん

W「僕は何かの命を食べていると思ったけど、みんなは命をいただいていると思っていた。」同 I・Mさん

W「ゲーム、コウモリとガで、コウモリをやった時、目の前が真っ暗でとてもふ自由で、コウモリはくろうして餌を取っていたのだなと思った。私たち人間はスーパーなどですぐ食品を手に入れることが出来るけどコウモリは出来ないの、残さず食べようと思った。」同 T・Rさん



W「私は金沢小にそんなに自然なんか無いんじゃないの？ と思っていたのですが、今回のフィールドパターンでみんなが持ってきたしぜんで学校に自然が本当にいっぱいあることに気が付きました。」

同 D・Hさん

W「私は、木の皮を見つけました。みんなは、日本の地図に見えるから面白いねと言ったので、見方を変えれば、ちがうものにも見えてくるんだなと思いました。」同 I・Kさん



● S.O.E. 活動報告 (2010年12月)

日	曜	内容
2	木	上板橋小 5年「食べ物はどこから」授業実施
4	土	埼玉自然保護協会「地域でまもる生態系」シンポジウム参加
12	日	「街の環境発表会」エコポリスセンター 参加 SOE年賀状発送作業
19	日	SOEニュース発行作業・ワークショップ
23	木	板橋区企業活性化センター所長と面談
26	日	板橋区立中台中学校自然科学部収穫祭参加

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp